

【専門医派遣21】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 時津町立鳴北中学校

実施日 令和6年10月17日(木)

場 所 時津町立鳴北中学校 学年ホール

講 師 医療法人愛育会 花みずきレディースクリニック 濱崎 哲史 氏 (産婦人科医)

形 態 ・講話 ・職員研修 ・その他()

参加者	生徒 (3) 学年 (79) 人	学校職員 (5) 人	保護者 (0) 人	その他 () (0) 人
-----	----------------------------	-----------------	----------------	-----------------------

テーマ【いのちと心を守るために】

内容(具体的に)

- ・男女の体の仕組み
- ・男女の悩み(月経について、上手な月経の乗り切り方、ペニスについて)
- ・妊娠の仕組み、過程
- ・出産について
- ・胎児の発育の様子、心音
- ・避妊について
- ・子宮頸がんとHPV ワクチンについて

<当日の様子>



<講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等>

○講師から

「初経や精通を迎えた人は、性交をすると妊娠する可能性があるということ。意図しない妊娠を防ぐために、まずは性交をしない、正しく避妊をすること、もし妊娠の可能性がある場合は早急に受診をすること。」と指導があった。また、子宮頸がんについて「年々増加している現状がある。子宮頸がんは予防できるがんとして、ワクチンを推奨する。未接種の人は今後、考えてほしい。」と話があった。

○生徒の様子・感想

生徒は真剣に話を聞いており、胎児のエコー写真や心音を流した際には、胸に手を当てて、自身の心拍と比べている生徒も見られた。自分事として性や命について考えることができたようである。

- ・自分のからだは自分で守るべきだし、お互いを大切にする必要があると思った。避妊方法や性行為を安易にしないなど、対策法を知って、知識として身につけておくことで安心・安全に生活できると思う。
- ・産んでもらったことに感謝し、これからも自分の命だけでなく、周りの人の命も大切にしていきたい。

【専門医派遣22】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 長崎県立佐世保工業高等学校定時制

実施日 令和6年12月6日(金)

場 所 長崎県立佐世保工業高等学校 視聴覚室

講 師 平井産婦人科医院 平井 雅直 氏 (産婦人科医)

形 態 ☒講話 ☐職員研修 ☐その他()

参加者	生徒 (全) 学年 (24) 人	学校職員 (12) 人	保護者 (0) 人	その他 () ----- (0) 人

テーマ【 思春期ってなんだろう？性ってなんだろう？ 】

テーマと
内 容

内容(具体的に)
 ○男女のからだの違い・二次性徴
 ○多様な性
 ○妊娠・出産
 ○中絶・避妊
 ○性感染症
 ○子宮頸がん・ワクチン接種
 ○デートDV

＜当日の様子＞



＜講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等＞

○男女のからだの違いを含め、からだの発達段階を理解し、お互いを尊重することや産み育てることができる年齢になるまで性交をしないか正しく避妊することが大切。
 ○子宮頸がんは予防できるがんであり、キャッチアップ接種についても対象の生徒はよく確認してぜひ受けてほしい。

＜感想用紙より＞

☐保健の授業だけでは学べない知識を多く得ることができ、改めて命の大切さを実感することができた。
☐性について不思議に思っていることがあったがそれは当たり前のことだと知りホッとした。これからも自分のアイデンティティを大切にしていきたい。
☐性について様々な法律があることも学べた。学んだことをいかながら生活していきたい。

【専門医派遣23】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 佐世保市立大野中学校

実施日 令和6年11月11日(月)

場 所 佐世保市立大野中学校 体育館

講 師 医療法人佐世保晩翠会 村上病院 鋳尾 聡子 氏 (産婦人科医)

形 態 ・講話 ・職員研修 ・その他()

参加者	生徒 (3) 学年 (187) 人	学校職員 (8) 人	保護者 (6) 人	その他 () () 人
-----	-----------------------------	-----------------	----------------	---------------------

テーマと内容

テーマ【あなたらしく生きるために～大人になる前に知っておいてほしいこと～】

内容(具体的に)

- ・二次性徴による、男女の発達の違い。
- ・妊娠と避妊方法(ピル・コンドーム)と、相談先は必ずあるので一人で抱え込まないでほしいということ。
- ・月経痛、性感染症の症状と、受診の勧め。
- ・子宮がん、子宮頸がんについてと子宮頸がんワクチンの説明。
- ・デートDVの説明を通して、自他を大切にすることということ。

<当日の様子>



<講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等>

- ・講師より、保健の授業内容(第二性徴・性感染症)を再度、教授いただいた。また、コンドームやピルを使用した避妊や性感染症予防など、自分と相手を守る具体的な方法を「正しい知識」として教えていただいた。加えて、女性の妊娠の時期など、社会の情勢と合わせた説明があった。
- ・生徒は、自分らしい生き方や自分が望む形の妊娠・出産をするため、相手を大切にすることなど、性と生き方について多角的に考えていた。そのために、これから自分が取れる手段や知識として、子宮頸がんワクチンの接種・性感染症になった際の受診先・性に関する悩みがあるときの連絡先などを学んでいることが感想文から読み取ることができた。

【専門医派遣24】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 佐世保市立柚木中学校

実施日 令和 6年 11月 25日 (月)

場 所 本校体育館

講 師 医療法人佐世保晩翠会 村上病院 鋳尾 聡子 氏 (産婦人科医)

形 態 ・講話 ・職員研修 ・その他()

参加者	生徒 (全) 学年 (77) 人	学校職員 (8) 人	保護者 (0) 人	その他 () ----- (0) 人
-----	----------------------------	-----------------	----------------	--------------------------------

テーマ【 あなたらしく生きていくために 】

内容(具体的に)

- ・性の多様性(LGBTQ)
- ・二次性徴(体と心の変化、月経)
- ・妊娠と避妊(妊娠検査法、人工妊娠中絶、ピル(アフターピル)、避妊法)
- ・デートDV(SNSTラブルの回避)
- ・性感染症
- ・HPVワクチン

<当日の様子>



<講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等>

- ・LGBTQの方の割合が8.9%(左利きの人と同じくらい)と聞き、「意外と身近だと感じた」「ありのままの自分を出せるような社会になってほしい」「性の多様性を理解し互いに尊重しあって生きていくことが大切」と、生徒は感じたようであった。心の性を一番大切にすることを学んだ。
- ・二次性徴による体の変化や妊娠の疑いなど、少しの違和感や心配があれば、一人で悩まずに、誰かに相談をしてほしいと繰り返し言われていた。信頼できる大人のほかにも、TELやSNSでの相談もできると聞いて、相談へのハードルが下がったようであった。
- ・HPVワクチンの話を聞いて、「男性でも効果があると初めて知った」「ワクチンを打ってがんを予防していきたい」「後遺症がないと知れてよかった」など感想を挙げていた。
- ・専門家の話を聞くことで、性に関する理解がより深まり、自分や周りの人を大切にすることを考える機会になった。

【専門医派遣25】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 佐世保市立福石中学校

実施日 令和 7 年 2 月 20 日(木)

場 所 福石中学校 体育館

講 師 産科・婦人科東島レディースクリニック 東島 博 氏 (産婦人科医)

形 態 (講話) ・職員研修 ・その他()

参加者	生徒 (1. 2) 学年 (124) 人	学校職員 (9) 人	保護者 (2) 人	その他 () 人
-----	--------------------------------	-----------------	----------------	--------------

テーマ【 思春期のこころとからだ 】

内容(具体的に)

- ・思春期のこころとからだ、女の子の変化、男の子の変化
- ・思春期の性について
- ・妊娠、出産、避妊、性感染症について
- ・子宮がん、がんの予防、ワクチンについて
- ・専門医からのメッセージ、大切にしてほしいことについて

＜当日の様子＞



＜講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等＞

思春期ってなんだろう、二次性徴ってなんだろうと言うテーマから始まり、今まさに思春期で心身の発達段階であること、どのような成長がみられるか確認した。続いて、妊娠・出産について、妊娠するということは何が起こっているのか、お腹の中で成長する赤ちゃんについて学び、生まれてくることは奇跡なのだという事。好きな人ができてお付き合いをすることは自由だけど、性的接触をしたら赤ちゃんができるかもしれない。中高生が妊娠したらどうなるだろうかと問いかけがあり、中高生にはこのようなお付き合いはふさわしくないと学んだ。

がんの中でも子宮がんは女性のがんだが、性的接触によってウイルス感染し起こる、PHV ワクチンのこと、早期発見ためには定期健診が大切であることを学んだ。

最後に生徒から様々な質問が出たので、一つずつ丁寧に答えていただいた

自分が生まれたことは奇跡的なことであること、体を大切にするためにできることは何か考えることが出来た。また、今後の人との付き合い方についても考えることができ、有意義な機会となった。

【専門医派遣26】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 佐世保市立鹿町中学校

実施日 令和 6 年 7 月 18 日(木)

場 所 鹿町中学校 パソコン室 2年1組教室

講 師 産科・婦人科東島レディースクリニック 東島 博 氏 (産婦人科医)

形 態 ・講話 ・職員研修 ・その他()

参加者	生徒 (1・2・3) 学年 (92) 人	学校職員 (14) 人	保護者 (6) 人	その他 () () 人
-----	--------------------------------	------------------	----------------	---------------------

テーマ【 思春期の性について 】

内容(具体的に)

- ①思春期って何だろう? 性って何だろう? ・二次性徴、女の子のからだ、月経について
- ②妊娠と出産 ・妊娠のしくみ、胎児の発育
- ③男の子のからだ、多様な性について
- ④予防できます! 「子宮頸がん」

・子宮がんについて ・子宮頸がんの現状、検診、ワクチンについて

＜当日の様子＞



＜講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等＞

- ・男女ともに二次性徴があり、からだに様々な変化が表れる。それに伴い、みんな性に関する不安や悩みを持っている。
- ・月経についての悩みもいろいろあるが、「適度な運動」「好きなことをしてリラックスする」「痛み止めなどの薬を上手に使う」といった3つのポイントを参考に月経痛を上手に乗り切って、あと40年ほどある月経と上手に付き合っていくことが大切である。また、産婦人科へ相談することも大切である。
- ・射精や月経を迎えた男女は、妊娠する可能性があることをしっかり考えて行動してほしい。
- ・多様な性があるため、互いを理解し、認め合っていくことが大切である。
- ・子宮頸がんは、若い年齢で増えており、毎年多くの方が亡くなっている。HPV ワクチンの接種や早期発見・早期治療のための検診受診などを行うことが大切である。
- ・命の大切さをよく考え、相手を思いやる行動をとってほしい。
- ・生徒たちからは、「月経を嫌だと思っていたが、女性にとってとても大事なことであったと知った。」「性に関する内容について今までは変なことだと思っていたけれど、それがどれほど大切なのが分かった。」「これから自分や周りの人を大切にしたい。」などの感想が多く、非常に有意義な時間であった。

【専門医派遣27】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 佐世保市立黒島小中学校

実施日 令和6年9月26日(木)

場 所 佐世保市立黒島小中学校

講 師 産科・婦人科東島レディースクリニック 東島 博 氏 (産婦人科医)

形 態 ・講話 ・職員研修 ・その他()

参加者	生徒 (7~9) 学年 (4) 人	学校職員 (8) 人	保護者 (1) 人	その他 () () 人
-----	---------------------------	-----------------	----------------	---------------------

テーマ【思春期ってなんだろう？性ってなんだろう？】

内容(具体的に)

- 2次性徴について
 - ・女の子のからだの変化、月経の仕組み
 - ・男の子のからだの変化、包茎
- 妊娠と出産
 - ・妊娠の仕組みと胎児の成長、性交の結果起こりえること
- 子宮頸がん
 - ・子宮がんの発症年齢・部位、子宮頸がんを取り巻く日本の現状
 - ・子宮頸がんの予防ワクチン、ワクチン接種スケジュール、早期発見のための検診

<当日の様子>



<講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等>

○月経は個人差があるが、15歳までこなかった場合は産婦人科の受診を勧める。月経痛は我慢せず、痛み止めを活用すること。男子は陰部を清潔にすることが、とても大切。初経を迎えた女子と精通を迎えた男子は、妊娠する、させることができる体になった状態であり、考えて行動することが必要。もし、困ったときは家族や教員等、相談をすることが大切。子宮頸がんは、毎年多くの人がなくなっている現状。女性だけでなく、男性にも関わっていることである。ワクチン接種による予防や検診による早期発見が重要。

○生徒からは「性にも個人差があることを知った」、「他人事ではなく、自分のこととしてとらえたい」等の感想が聞かれた。性に対する正しい知識を得るとともに、相手を尊重すること、命を大切にすることについても考える機会となる貴重な講話をいただいた。

【専門医派遣28】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 島原市立有明中学校

実施日 令和 6年 12月 6日(金)

場 所 島原市立有明中学校 体育館

講 師 医療法人愛心会 島原マタニティ病院 吉田 至幸 氏 (産婦人科医)

形 態 ・講話 ・職員研修 ・その他()

参加者	生徒 (3) 学年 (79) 人	学校職員 (9) 人	保護者 (0) 人	その他 () (0) 人
-----	----------------------------	-----------------	----------------	-----------------------

テーマと内容

テーマ【 性について 】

内容(具体的に)

- 妊娠と出産
妊娠のしくみ、妊娠中の女性のからだ、胎児の大きさ・重さ体験、妊婦体験
- 性交
初体験を迎えるシチュエーションを考える、経験年齢、性に関する不安や悩み、性欲
- 中絶
10代の中絶件数、人工妊娠中絶、望まない妊娠を避ける方法
- 性感染症
性感染症の種類、子宮頸がん

＜当日の様子＞ ＊事業の様子等を必ず画像で添付してください。



＜講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等＞

「妊娠と出産」「性交」「中絶」「性感染症」の4つの分野で講話をいただいた。生徒たちは、講話を真剣に聴き、講師の先生の問いかけに対しても積極的に答えていた。また、講話だけでなく、胎児の大きさ・重さが再現されている人形に触れたり、妊婦体験をさせていただいたりした。妊婦体験では、実際に妊婦のからだの重さを体験させてもらい、生徒からは「倒れてしまいそうなくらい重たい。」「お母さんに感謝したい。」との感想があった。講師の先生から、最後に「お互いのことを慈しむ交際をし、責任のある行動をしましょう。」とメッセージをいただいた。

今回の講話を通して、生徒たちは、性交・妊娠・性感染症は、他人事ではないこと、自分のこととして真剣に考えて行動しなければならないという意識を持つことができた。

【専門医派遣29】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 県立島原高等学校定時制

実施日 令和 6 年 10 月 24 日(木)

場 所 本校1年教室

講 師 医療法人湘南会 山崎産婦人科医院 宮崎 恭子 氏 (産婦人科医)

形 態 ☒ 講話 ☐ 職員研修 ☐ その他()

参加者	生徒 (1～4) 学年 (12) 人	学校職員 (8) 人	保護者 (0) 人	その他 () () 人

テーマ【 身近な性について考えよう ～ 臨床の現場より ～ 】

テーマと
内 容

内容(具体的に)

・ジェンダー

・妊娠・出産

・デートDV

・避妊・人工妊娠中絶

・性感染症

・HPV ワクチン

について

<当日の様子>



<講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等>

- ・自分の性を認識して大切にする
- ・相手の性も認識して大切にする
- ・性行為は妊娠や性感染症と繋がっていることを理解する
- ・避妊や性感染症のことを知る(自分と相手を守る方法を知る／正しい知識を身につける)

ことが大事。

「産婦人科」は敷居が高いように思われがちだが、女性の一生に関わっている診療科である。高校生にも生理についての悩み等あれば気軽に受診して欲しい。

【専門医派遣30】

令和6年度長崎県学校保健専門医派遣事業 報告書

学校名 長崎県立島原商業高等学校

実施日 令和 6 年 7 月 17 日 (水)

場 所 島原商業高等学校 多目的室①

講 師 医療法人慈眼会 坂本医院 関本 眞由美 氏 (産婦人科医)

形 態 ・講話 ・職員研修 ・その他 ()

参加者	生徒 (全) 学年 (247) 人	学校職員 (30) 人	保護者 (0) 人	その他 () (0) 人
-----	-----------------------------	------------------	----------------	-----------------------

テーマ【 性に関する知識を身につける 】

テーマと
内 容

内容(具体的に)

- ・男女のからだ
- ・妊娠と出産
- ・人工妊娠中絶
- ・避妊の方法(コンドーム、アフターピル)
- ・性感染症の種類と梅毒の増加
- ・ライフプラン
- ・LGBTQ

＜当日の様子＞



＜講師からの指導や助言・成果や生徒の行動変容等＞

妊娠が早すぎても、経済面で困難に直面し諦めないといけなく、遅すぎても親の介護と被ったりして健康面でも色んなリスクがある。そのため、今のうちから人生のライフプランを立て、妊娠適齢期にこの人の子どもが欲しいと思った時に授かることができればなおよい。

産婦人科へ行くことは敷居が高いかもしれないが、生理不順や月経痛など少しでも不安なことがあれば気軽な気持ちで行っていい場所だとおっしゃってくださり、「産婦人科は高校生でも気軽に行っているんだ。」と安心する生徒が多くみられた。